



湖月鈔發端條目

此物語作者事

策式部系圖并傳居所墓所等

号策式部事

式部廣事

物語之叙起

文法

大意

物語准授

物語時代之下意

物語述作之時代

此物語故人稱義事

一 法成寺入道 御書殿也 園白の奥書よ云。此物語世よ皆式
船く他とのそり人里。老比丘等と加ふ所也云云

明星 これと是と自然なる事なり

一 三 此況此物語越前守為時書と云へ此云云

一 明 徳院御記 兼久二 少と書式部事之とのきく。又清輔

朝臣袋草紙云。故物語の奇乃入撰集いあしとす。又

後拾遺雜一友為時奇。いれりあつびとあひい望

よあつひあつ月ととまきり。是ハ源氏物語の奇いあ

物ころよいりぬとぬいとゆや。件の物語ハ書式部作

也と云云 伊云 古人の口説皆書式部一人の作とあそ

つとを教と強とくく

一 此物語の作者書式部ハ勸修寺元祖良門より五代越

前守友原為時の女母ハ松尾守為信女堅子とつり

明星抄 系圖

雨院元大臣冬嗣公六男

勸修寺元祖

良門 贈元大臣正一位

内舍人正六位上

從四位上右中將

利基 贈正一位

藤原系圖元中將云云

小一条内大臣

高藤 寛平贈正一位
延喜御外祖
勸修寺家祖

中納言從三位

兼輔 カキスケ

号堤中納言

奇人

豊後守從五位下刑了大補

惟正

河内守

為頼 奇人

惟規 ケノリ

越後守正五位下

奇人

為時

花柳 越前守

上東門院女房号紫式部源氏物語作者

女子

明母 常陸守 母右馬以友為信女 御堂関白妾云云右衛門佐宣孝室

一河海抄云紫式部ハ鷹司殿御堂関白北方一条光の官女也お終

て上東門院ハ陪侍と先祖右ハ註と後ハ右衛門佐宣孝

ハ嫁して大貳三位弁局狭衣作者と生

一河海云式部曰此ハ正親所以南京極西頰今の東小院

の向也此院ハ上東門院の北所乃此也

抄上東門院彰子御事 一条院后也

御堂関白道長ハ一女母從一位倫子云云長保元

年十二月朔日入内 年十二云云同二年三月十五日立

后 年十三 寛弘九年二月十四日皇太后宮寛仁二年

正月太皇太后宮万壽三年 落飾為尼 廿九 号上東門

院 法名清淨覺 卜畧

一河海云式部墓取ハ雲林院白毫院の南ハあり小野

墓の西也宇治の室苑日記ハ也世野ハありあり

雲林院ハ淳和天皇の離宮也堅本此也云云光源氏雲林院

ハ云々六十巻と云云と云云を云云ありあり

院贈僧正の件可とありありて天台一心三觀の血脉ハ

ありあり雲林院乃幽閑とありあり

一紫式部と云事 清濁袋者紙云紫式部と云名二院

あり一ハ及び物落乃中ハ若葉の巻とあり

此名とあり一ハハ一条院御乳母のみハ上東門院

実後ありと有り

愚案 六の海抄の文に類と被翠と云くわをづり

一明星云此次二の書は源氏の左近の事と云ふらん

西文大長言の醍醐天皇御子 冷泉院は代安和二年に

太宰帥よ左近と云れり一の被翠と云ふは

一と云ふりてさひ歎るるはるれは源氏と云ふは

策上と云ふは右の事よと云て左納言菅原相の事

と引周公且白居易古詩勅て類向と云ふは

有り 愚案 是も海の類なり

一 文法 明星抄云先世物語の大綱は高言ふ

はより高言と云ふは己言と云く他人の言と云く

といつりては高言は文法の名と作り出りてわづら

いふ事と云ふは高言と云くは高言と云くは高言と云く

物語よ云々の修成と云くは高言と云くは高言と云く

と云くは高言と云くは高言と云くは高言と云く

より文章より一切の文章の文章の文章の文章の文章

より一切の文章の文章の文章の文章の文章の文章

愚案 寓寄也といふは人の言と作り出りてわづら

いふ事と云ふは高言と云くは高言と云くは高言と云く

又云人の言と云くは高言と云くは高言と云くは高言と云く

丸傳と云ふは孔子の春秋と云くは高言と云くは高言と云く

は後人と云くは高言と云くは高言と云くは高言と云く

あるは後生よ見たりと云くは高言と云くは高言と云く

善懲惡と云くは是也此物語の作者は本意是也

三 亦一宇、蘊殿の春秋之法也。是則筆誅と云物云、
抄と云人の一字あく人の行状と云先と云と云と云物
格あくもておとハの一字ありて如比の歎あきと云わ
三 修の廢殿の資治通鑑の文勢司馬光り視とま
るふと云云。抄は是ハ奈み地と云く何と云と云批判と云と
のあつと云と云や

明星抄云、くろく文辭と似と云史記司馬遷の筆
法と云く。卷よは身と云ると史記の勅教と撰と云くは
此物格の習ひ物一詞と取つめと云と云と。寓言ハ柱よよ
くると云と云の虚証やと云と云司馬遷り史記乃筆
法と云と云と云

愚案卷の治身史記は撰と云と云三は況と云奥り紀

と云虚証やと云くは唯撰のよと云と云

一 大意 明星は物語第一部の大意而は好々妹艶と云て
建立と云と云と云。作者の中素人として仁義の常の道よ
引の道終よハ中道實相の妙理と悟りしめと云。出世の苦根
と成就と云と云と云。されど河海もと云と云の交仁義の后
好色の媒善授の縁よと云と云と云。是と云のよと云と云と云
と云と云。弁花秋同云
抄凡内典外典ハ千万抽めと云。難解難入也。仍て撰化乃
方便と云と云。一代権実内外の書典乃意をと云と云と云
一 抄よ史と云と云と云。假名四十七字と云と云と云。せら出世の正法
と云と云。めと云と云。明鏡よ向と云と云と云。のれと云と云と云
と云。則天地と云と云。況や人間よと云と云と云。是よ仍て

の胸とさうれいするありびうしとくはあなりとて自らよま
つこよねと毛詩又漁風とさうし戒とて世々の史漢亦
暴虐とさうとり是後人の戒なり。經教の中にも提婆
うみ途又仁王經は九百九十九のらびとさうんとせし
又阿闍世太子の父王は慈母とて母と害とんとせし
世の群生と戒うんしめし。此物結と好又漁風のものとて
け風のうしめしはうたてて世の教物とけられたるは
書み經の人の身よさうしに義のたよ入し。況や女房
しこのうしめしを法をさうしとて人の身よらうし
人のぬとらうの漁風とさうしとて善道の媒とて中
のたよ入し。中道實相の悟よさうし入し。方便は
教也

明天台一家の心四教よけて化法化法のお程乃四教の
つて先化法の四教とつふ
三教 四阿含 八十誦律 五部律 一切の小乘論
定戒論の三教と
さうしは後まうしとて戒定慧の三法門也是小

乘也

通別 圓の三教ハ大乘也三大乗とて是也

愚業 是五時の説法よけて仏の教よ法よとて是也

化後の四教とてハ

傾 漸 不定 秘密

愚業 是み時の後法の別儀式を辨とて是也

此物結四教とさうしとて是也

愚業 是事此物結よあつて是也

一物語准抄之事

何 特代 醍醐 朱雀 村上の三代は准

とらかり。桐壺は門へ延喜。朱雀は天慶。冷泉は天曆。光源氏へ西宮。尤大臣。如此相叢とくく。孟明日

河桐壺。卷よる名物はあふり。ぐとらわさそ亭。朱雀乃ゆゆとのとく。らぶらわられらん。ぐら長根。可の由緒。亭み院の事。せまると。松。ぐとら。とく。とく。又。高。藤。人と。まの。ぐら。よ。め。らん。事。へ。や。ま。の。御。門。の。い。ま。め。あ。れ。ぐ。と。き。乞。由。透。誠。也。

又繪合よ朱雀院の由事と延喜の由事づつとてしめし。ゆえ。と。ゆ。ふ。又。と。ら。ゆ。世。の。ゆ。ゆ。も。お。と。ま。く。と。と。り。

又昭宣公の母の寛平法皇の宮女延喜の帝は妹あり。致仕大臣。乃中將の母と桐壺乃帝はひつり。由。版。と。あり。此

外とてゆゆり

愚案は桐壺帝と宇多の帝はゆみ延喜よかそと。朱雀院と天慶よらそと。ゆゆ也。

又云作物語のあひ入る。細へ其人の面影。わたりも。行。迹。し。れ。わ。く。へ。の。か。ら。ら。よ。と。し。く。と。く。れ。と。換。と。ら。ゆ。か。一。漢。朝。の。書。籍。春。秋。史。記。を。と。く。實。録。を。と。か。く。の。異。同。の。あ。ら。う。仍。桐。壺。の。帝。冷。泉。院。と。延。喜。天。曆。よ。か。そ。と。人。は。り。か。ら。う。或。は。唐。宣。宗。の。古。さ。と。あ。り。と。り。或。は。秦。始。皇。れ。く。れ。る。例。と。う。つ。と。り。又。天。慶。由。門。の。相。續。の。皇。胤。ゆ。ゆ。と。ゆ。ゆ。も。此。物。縁。よ。は。朱雀院のゆみ。今上冷泉院のゆみか。一。或。は。ゆ。ゆ。系。有。作。者。と。ゆ。ゆ。か。お。秦。始。皇。れ。く。れ。る。例。と。う。日。本。の。皇。胤。よ。と。と。り。一。源。氏。の。ゆ。み。冷。泉。院。の。ゆ。み。と。即。位。の。事。の。例。あり。と。あり。

高麗の桓人よ遷事。延喜皇子文彦太子とおしり
くあり。文彦はとくり名諱ハ保明親王。此一あり。早世
延喜の正代の前場也

愚云。古事記の例を以て古のあり。家物の例も
いづれの正代よりいづれに時代と云はれん。是世
の褒貶と云ふも。又富の用法也

一此物語延喜と云ふてよ。古事記より此方三代實錄より人王五十八代
日本國史日本紀より此方三代實錄より人王五十八代
光孝天皇仁和三三年の八月よりいづれに時代と云はれん。是世
か。此物語と云ふてよ。六十代醍醐の帝よりいづれに時代と云はれん。
この日本の國史よりいづれに時代と云はれん。又十九代宇多乃

帝とのぞきて延喜と云ふてよ。いづれに時代と云はれん。聖代を双の明王の
身は延喜と云ふ物と云ふてよ。是れ皇朝の終也

細流云。孔子の春秋と表公よりいづれに時代と云はれん。魯の哀公
周の敬王の時代よりいづれに時代と云はれん。後元明王周元王貞定
王の時代よりいづれに時代と云はれん。考王夷烈王以下のいづれに時代と云はれん。
終より司馬温公の通鑑と云ふてよ。夷烈王二十三年より
あるより。是れ延喜と云ふてよ。いづれに時代と云はれん。此物語を
の正代と云ふてよ。いづれに時代と云はれん。

一物語述作時代 二 寛弘の始 三 康和の末 四 流布と
寛弘より康和の百余年よりいづれに時代と云はれん。世よ
りくわん事。お條之位 俊成の 京極黄門 定家ののいづれ
と云ふ 明日云

一 此物語故人稱羨事

明德院日記義久二年一切の物語多しといふてもあるは
る。ありハ託事タケスレハ伊勢物語ハ何いさうさうもあつたも
上よりこの物語勝人ハ下よりせられたるも外をハ。いづ
の物語とつてしてとるべきは餘りさかたは源氏の物語不可ツカヒ後乃
抑し又ハ凡人のあつたも。崇武タカタケア書之。中畧ナカセツ傳ハ法華法
道法ハ一篇よつたり。不可ツカヒ後乃源氏の奇
ハ奇也オチレ校衣サコロモの奇オチレもあつたも人わりのさかたは
ちれり。又ハ同日の論ハわらば。後ハ校衣の奇とさうわ
らうらわれども源氏のさかたはさうさうも。雲泥クニあり。
凡奇道ハさうさうと水大のさかたはさうさうも。源氏ハ奇
ハ何つても。中ニハ奇秀乃造。是又何人ハ是ハ及びん。中ニハ

ハつたり。後ハ虚云とせり。優美とせり。是ハさうさうも
とあり。あつた。但ハいさうさうも奇と又不可ツカヒ後乃。水鏡ミヅキョウハ
忠親崇武タカタケア源氏物語つらつらしてゆり。凡オチレ史シ
ス作の不行オチレハさうさうも。日本紀とさうさうも。法華院日記
ハつたり。さうさうも。わらう。さうさうも。何人ハ日本紀の奇と
号ハつたり。さうさうも。凡此物語の中ハ人の振替とさう
ハさうさうも。後ハ男女よつたも。さうさうも。人のいさうさうも。しめ
ハの趣と教つて。さうさうも。後成ハ六百番ハ奇。命判イミ判
云。源氏物語とさうさうも。奇ハさうさうも。さうさうも。
定家ハ云。源氏物語ハ崇武部。奇ハさうさうも。の程ハさうさうも。地ハさ
上ハさうさうも。此物語とさうさうも。何人ハさうさうも。さうさうも。さうさうも。
於法抄オチレハ奇

加へられて之は物終せりか式あり他よのこり老比丘
等とてしつる云々云々

愚云河海抄は信本教多るなり今畧す

一河内本 抄河内守源光行本也 明以八本校合取

捨為家本云々

愚案光行清和十代苗裔河内守大監物

抄是ハハ抄めくこ亦ハ現紙之或ハ何と云り義理を

付しつる様よ多しくの或後ついで云々作この本ことハ

りつる云々

一表紙 明系中納言定家本也

明世物語の明史記の巻法と云々して曰後と云々

云々御ると云々後生れ云々書生の誤る云々と

新しく今案を加へるなり改めよと云り云々云々
此よのこりりして物語の本云と云り云々定家の
表紙と云本云々他志の本云と云り云々云々
云々也云々

一 世物語諸抄

源氏奥入

行成五代末孫定信宮内權少輔從五位上
伊行之作
お定家河内追加物語本奥入仍号之

追注加

定家卿作 愚案奥入之事と云々云々

水原抄

河内守光行作 河内本註

紫明抄

光行式部直親行才紫雲寺素寂作 河内本註

源中秘抄 日人作 源氏中秘説也

源氏論義

弘安年中論源氏物語難義 明 伏見院東宮此出 時世事あり 右 左右八人出問題ニテ条変勝負

河海抄 北卷

順徳院中三世孫四辻 尤大臣善成人の作也 一花ニ号ス松岩寺 尤府法名常勝

明 是より系のしりしと云云 銭拾てとよは故事 来歴と引 幼ハ義理と述と云 是尚河内方より道と也

河海抄序

光原氏物語ハ寛弘乃始り 出来て 康和の末よりひろま こところより代々のりくわきび物として 西の物語と といれり 中より中納言定家の巻くは 難義と註して 奥入と号し 大監物光行の家への口傳と抄して 水原 と名つあり 云々のとあり 伏見院坊よりあり

時問題と云々よきと云々 後醍醐院御位のもめ 彼梨壘の奇仙は作とて 万葉集と漢と云々 例と云々 されきりもや 墨戸乃人 教と云々 十四帖と講人と云々 終く義ありと云 光原 忠守朝臣七の中れ 座乃云と 終く 尤く 云々の中れ 撰り 應と云々 云々 顧問よあり 云々 秘説と義 一 此 家よかあり ぬよ 云々 云々の末と云 云々 云々の 惟光良法 風と云々 云々 云々の 権と云々 道と云々 び 昔より 推す 卒の やり と 云々 今よ 云々 云々 云々 云々の 神の 云々 云々 云々 云々の 業の 云々 云々 云々 云々の 中葉の 林よ 権ひて 云々 云々 云々 云々の 云々 云々 云々の 海と云々 云々 云々の 云々 云々

色眼の多し西と華舌よのへく花鳥情情と名はく流
まらうあり

源語秘訣 ゴヒクダニ冊

源成の内十五子條の秘流あり 同作

和秘抄 一冊

同作

年立 一卷

同作

これ中々くハ皆河内幸試月々善表紙と用しれざり
一に西三条内府實隆公 サミタカ 号 スセツヨウ 適遙院 二条家の奇作と
中奥志多ひて宗祇と河津合ありく善表紙と用ひ
まふそれよりこの世々皆流しく善表紙と用ひ
不審抄出 一巻 宗祇作 河花の表抄の外不審の事どもを
兼良公ハ尋りしれり同書也

帚木別註 一卷

同作

咲花抄

八巻 尙拍老人 シヨウパク 道遙院 潤色流 ニシシヨウ 久我度流
牡丹花老人号 ヒナノハナ 夢菴 ユメウ

細流

七巻 西三条公條公 セノエ 号 ヒサナ 終名院 之作也

師伝 是咲花より〜〜〜其不足と補ハ河海花鳥
の撰と〜〜〜其可取と九月ハ流て 花流可取
河流の流或ハ抄よ表かどと云ふ〜〜〜云云

明星抄

七巻 西三条實澄公 サネノ 号 ニシ 光院 之作云云

師伝 細流ハ發揚一冊と加く〜〜〜小補あり

孟津抄

七巻 九条得阿桂通公 タケノ 号 トシ 東光院 之作也
政山公

貞徳老人云ハ外祖父適遙院殿の流成物語也云あり

穉名院殿よ再同より極め三光院殿よ山穿鑿空
くよ及び一と云。愚業は孟津抄の山海花鳥宗
祇別種樂花鳥と月ひ成の要とみて畧しくと云
し。然不足の文よは注と加らる。但愚本抄写のわ
かり不^ス少^キしして不^ス敷^キの事ども多し。よりして注と
月りの十よ三四よと云と可^ク惜^キ年

孟津抄序

光徳氏物語の寛弘のころめよいごとく康和の末よひらま
りよと云り世々の歌ひ物と云り西の物と云り
と。日本の至^ニ實^ニ方法いづこりこれより人やと云
ぬ。鶴の道と云りむねと一部よと云り作らと云
は意味ありと云り後と云り入道前太大臣の撰^ニ後^ニを独

空よりよ山海抄花鳥物語のそ趣尚流よ成はね
或は不叶事と云と取捨の旨よ弁花抄のそ趣と云
加らくそよはれいづれ事と再同し作らよ合頭は
ハ其のそと云り又重叙のそハ私と付作らり。作は物語
の云これと云と云。黄河九曲と云。崑山よりいづこ
よと云んと云。張騫と云。橈と云。素と云。せわられ杖の
と云。めよ。隈河よつりて二星よ同りと云。孟津と
云。よ。夢と云。と云。云。言よ。亦同卦なり。げ作者
賢才のそと云り。記事ハ仙術と云。及ぶ者。記げ一部
録一畢。あ。月。色。日。も。と。あ。れ。七。夕。な。ら。ば。則。孟。津
抄と名つれと云。と云。と云。り

九は物居の中は載るる所のくこれ氣象行跡一家の風俗和秋の風神始終皆際くわりて而してお遠か一能くを付てそ若魚とくみ傍若とくりてそこれよあつて平生修身の毎りとりとくく物欲

卷々付名事

花九五十四帖の巻は名は四つのことあり一は及相とくり二は及奇とくり三は及相と奇との二つとくり四は及奇も初めとるる事と名とくり天台の教は四門あり一は有門二は空門三は亦有亦空門四は非有非空門也是よるぞくく

愚業此巻の名は四つのみわらるる必彼四門のくよりかすれあつて只四つの教なりとあぞくく

後ろくべし四門とくく台家よハニ義通別家の四教ともよ四門ありて十六門とまされ四教ともよ四門の心とあくくりたり事繁まされ別よ記くともよ玄義ハ止觀六よ秀南教の四門と文句四よわりら又此四門の後よつては氏一部の神とい道理よわりつ況わり別よ記く或は四門有空亦有亦空等と空假中の三諦よありつ台家不学の辟業よ必不可用者也

抄右説至近年此巻と見ゆ而毛詩各篇例わり世あくくお南とくくは是師説也

毛詩正義各篇之例不過五名篇之例義無定準多不過五女絶取一或偏举兩

字^フ或全取^ル一句^ヲ偏^ニ舉^グ則或上^ニ或下^ニ全取^ル則或^ハ尽^ス或^ハ餘^ス
亦有捨^テ其^ノ篇^ヲ首^ヲ撮^ル章^中之^ニ言^{ハシ}或^ハ後^都遺^テ見^ル文^假
外理^ヲ以^テ定^ム稱^ス

私^ニ此^ノ物^格乃^ハ卷^ク之^ノ名^是と^リ之^ク准^ムと^ル者^也

毛詩正義^ニ去^リ名^篇之^例不^過五^也

纒^取一^ラ

は物格の卷^ル名^は只^一之^とり^ひか^りと^字減^クと^シ
て名^とり^しら^るは^准之^也

蓬生^一 奇^ノ中^ニ少^クと^蓬と^シて^生の^字少^カ一^也

夢^浮橋^一 夢^ノ中^ニ少^クと^浮橋^ノ字^とく^て名^とせ^らる^也

或^ハ偏^ニ舉^グ兩^字偏^ニ舉^グ則^ハ或^ハ上^ニ或^ハ下^ニ

奇^とし^りて^名と^せら^るは^准之^也又^奇と^れば^初の^比

づゝのわり

帚木 空蟬 葵 花散里 溲標

玉鬟 御法 幻 橋姫 椎本

東屋 浮船 山^ノ奇^とら^る

若紫 奇^ノ中^ニ少^クと^若紫^ノ字^とく^て名^とせ^らる^也

はづりて

一 或^ハ全^ク取^ル一^句全^ク取^ル則^ハ或^ハ尽^ス或^ハ餘^ス

奇^とし^りて^名と^せら^るは^准之^也又^奇と^れば^初の^比

夕顔 未摘花 賢木 須磨 明石

松風 槿 二^ノ女 初子 螢

篝火 若菜上 柏木 鈴虫 総角

蜻蛉

以ノ奇と何と云と云と云

閑屋

以ノ奇と云と云と云と云

薄雲

奇よと何と云と云と云と云

常夏

奇よと何と云と云と云と云

胡蝶

奇よと何と云と云と云と云

行幸

奇よと何と云と云と云と云

藤袴

奇よと何と云と云と云と云

真木柱

奇よと何と云と云と云と云

横笛

奇よと何と云と云と云と云

夕霧

奇よと何と云と云と云と云

紅梅

奇よと何と云と云と云と云

早蕨

奇よと何と云と云と云と云

寄生

奇よと何と云と云と云と云

一 亦有捨其篇首撮章中之一言

何と云と云と云と云と云

桐壺

野分

梅枝

藤裏葉

若菜下

白兵部卿宮竹川

手習

一 或彼都遺見又假外理以定称

何と云と云と云と云と云

紅葉賀

此の字は巻の何と云と云と云と云

花宴

此巻よハ様の名んと云

繪合

此巻よ結の字合の字云と云

又毛詩よ其篇の名ありて言ると云六篇別は物

殆の雲隱巻よ此と云巻くニ注

思案是毛詩乃篇は名付り例はつわらよば物格
のきく乃名必は養りふりつらふよわいわい彼又
つ例とやどして又ふ格よらまらふりあ
魚一

一此物格有并之卷事。其品二りり。或いそ巻と書お
らる末と書つてあく別は一卷と書らわら。玉鬘方巻は并
物音胡蝶等横笛巻の并鈴虫等の類也。又或ハ人
人の人びりりとは一巻よ書らわら。帚木巻は并紀
并空標夕歌。濤標巻の并蓬生。園庭。自宮巻は并紀
梅竹川の類也。又其并の巻よ年紀の次書と書らよは
わく。或^ニ並^ニ或^ニ横^ニ并^ニ或^ニ魚^ニ横^ニ並^ニ并^ニ此三のふあり
並の并といふは帚木^ニ并の空標夕歌と書らよ。是帚木

卷ハ源氏十六卷の及乃事として書終りてもゆか
年の及秋冬の事と空標夕白は并一と書。又玉
鬘方の巻ハ源氏十六卷一後^ニ四^ニの十二月として終り。初巻
ハ^一九^ニ六^ニ卷一後^ニ八^ニの正月として書らわら。是年紀
才として並よ書と云く横笛の并鈴虫と云くはわら。
横の并といふは^水尾^巻並^巻の并園庭是也。水尾巻は源七
卷より九八巻の十二月として書らわら。是園庭巻ハ
源九八巻の九月の事と書らわら。是水尾巻の中回し事ハ
さし書らわら。又^水尾^巻並^巻は別よ書らわら。是年紀
紀横と書らわら。又蓬生の巻と云くはつら
まらつては源十六巻の及乃事と書らわら。横の并といふは
並よわら。是^水尾^巻並^巻の類ハ二と書らわら。是古

